

01. 10周年記念を振り返って(当日準備チームリーダー)

～10周年記念例会 当日準備チームの一員として～

青年技術士交流委員会

新瀨 大輔 (環境部門 修習)



7月5日(土)に中国本部青年技術士交流会10周年記念イベント、7月6日(日)に10周年記念例会が行われました。私が所属していた当日準備チームは、10周年記念例会のプログラムを考え、必要な道具の準備と、プログラムの円滑な進行を担当。私は僭越ながら、チームリーダーと、司会進行を務めさせていただきました。

中国地方のみならず、九州、四国、近畿、そして統括本部からの参加者も一緒になり、「中国5県の交流促進」と、「地域間(中国、九州、四国、等)の交流促進」のそれぞれの観点で、「交流の理想像」「交流を阻むボトルネック」を踏まえながら、「今後の方針・方策」をまとめて、中国本部青年技術士交流会へ、更なる交流促進のための提言を行う、という形で、ワークショップを進行いたしました。



写真1 ワークショップの風景

ワークショップの後は、交流実施の証として、名刺交換ならぬボール交換を行ったほか、中国本部青年技術士交流会10周年記念ソング”Wednesday”を斉唱。最後は九州本部青年技術士交流委員長である持田さんより、11月に開催される九州での全国大会の告知がなさ

れ、今後のさらなる交流へとつながりました。

成功を確信しつつも、予断を許さない綱渡りの連続の中、記念例会を無事に成功させることができたのは、無私の心で協力してくれる仲間たちがいてくれたからこそでした。青技交のメンバーの底力を実感し、自分がいかに恵まれていたか、ということも思い知らされました。



写真2 事前ミーティングの風景

さて、私は以前、とある市民活動の大御所の人から、「ファシリテーションの極意」について教わったことがあるのですが、曰く、「ファシリテーターの仕事とは、参加者全員を2階に上げて、梯子を外すこと」とのこと。当日参加された皆様からの提言をもとに、金高委員長以下皆様にさらなる交流促進を約束していただき、2階の階上より梯子を外させていただくことを、記念例会当日の、私の捨て身のパフォーマンスに免じてお許し願います。なぜなら、たとえ私が梯子を外したとしても、私が青技交と呼ぶ場所は、「無限の可能性を秘めた場所、まだ見ぬ高みへと続いていく場所」であるはずですから。

～・～ 10周年記念例会とライブハウスでの打ち上げ ～・～

